

平成23年度 第2回二宮町環境審議会 会議録

日時：平成23年6月28日（火）午前10時～12時

場所：二宮町役場第1会議室

出席者：藤田会長 / 露木副会長 / 鈴木委員 / 亀井委員 / 西山委員 / 三橋委員 /
渡辺委員 / 土谷委員

欠席者：野谷委員

事務局：生活環境課長 筑紫 / 生活環境班副主幹 生井 / 生活環境班主任主事 小嶋
コンサルタント（株）地域計画建築研究所：黒崎 / 田中

傍聴者：2名

傍聴者の確認

入室許可⇒意義なし

1. 開会

2. 会長あいさつ

- ・二宮町らしさを出していきたい。
- ・「選択と集中」の考え方をもって、他の計画を巻き込んでいくリーディングプロジェクトを打ち出していきたい。

3. 議題

(1) 次期環境基本計画策定について

- *事務局から資料1（環境基本計画策定部会について）、資料2（施策の体系）の説明、資料3（計画の推進方策について）の説明

【質問・意見】

会 長：①全体について、②資料2の中柱について、③アンケートの結果についての3つにわけて進めたい。

委 員：部会に入る前に、中柱の点検について、コンセンサスを得る必要があると思うが、それは今回なのか。小柱は民間の活動によるものが多いという印象がある。10年計画としたとき、町や県と民間とが協働で取り組めるものがほしい。中柱への展開の上で、目玉となるテーマをつくりたい。ボトムアップでは限界がある。事業を進めていくためには、財政的な措置が必要となる。アンケート調査でも意見が見受けられる「町の振興」や「省エネルギー」などについては、そうした傾向が強い。総合計画とのすり合わせも中柱の段階でやっておく必要があると思う。

会 長：事業実施にあたっては、行政が推進役になっていく必要がある。事業者もいる、

団体もある、それらと行政とがどのように連携して進めていくか、という議論だ
と思う。

委 員：町民アンケートで町民の意見は聞いているが、あとはパブリックコメントぐらい
しか意見を言える場がない。部会も審議会委員と役場の職員のみとなっている。
計画づくりが行政主体になってしまう恐れがある。

会 長：市民主体といっても行政がプロモートしていかないとうまくいかない。まずは中
柱の議論を進めたい。

委 員：行政と民間が一体となって取り組むテーマを考えたい。予算がつかないと事業が
進まないものが多い。中柱の中で重点的に取り組む項目を入れるべき。実行性を
高めるためには必要だと思う。

委 員：県や国という「頭」があってもいいが、個性を出すには、実際に事業を担うボラ
ンティア等が働かないといけない。二宮の環境にあった形で取り組むことが必要
だと思う。

会 長：部会には、関連する部局の職員の方に入っていただくようになっているが、その
他にもお願いしたい部局がある可能性がある。その際はよろしくお願いしたい。

委 員：部会間での連携した協議はどうするのか。全体として3つに分けているように見
えるが、環境教育など、様々な分野に及んでいるものもある。これはそれぞれの
部会で議論するということなのか。

事務局：3本柱を3つの部会で検討を進めていくが、環境教育や情報提供など、すべての
分野に入ってくるものがある。それらは各部会で議論していただく必要がある。
想定されている部署以外からの職員参加は難しい面もある。部会には事務局は必
ず出るので、一度持ち帰って、次の部会で反映するというのも考えたい。検討
期間が短いので、工夫して進めたい。

事務局：教育、情報提供は非常に重要な分野と理解しており、3つの柱の全部に関わる。
全体を貫く「串」の役割を担うものと認識している。計画の推進方策として、そ
れぞれの部会で議論していただければいいのではないかと考えている。

会 長：第2回目の部会の「推進方策」の所で検討し、事務局がとりまとめるというこ
とでいいか。

委 員：部会はいつどこでやるのかを委員全員に知らせて、都合のあう人は自由参加とし
てもいいのではないか。

■中柱について

<「I 多様な緑と水による自然の恵みが豊かなまち(生物多様性の保全)」について>

委 員：中柱は「山」、「川」、「海」の3つでいいのではないか。丘陵地や谷戸は「山」で
くくればいい。その方が全体のつながりがわかりやすい。

委 員：前回に比べるとすっきりして非常にわかりやすくなっている。農業は二宮町の特

徴だと思うが「農地」が中柱では出てこないのはどうなのか。

委員：農地は「2.丘陵地や谷戸などの保全」にあてはまるのではないか。

委員：農地は大切なので、「2.丘陵地や谷戸などの保全」と「5.良好な自然を象徴する動植物の保全」はそのままの方がいいと思う。

会長：近年、「里」をキーワードした動きが活発化してきている。里と結びついた川＝「里川」、入り浜権、みんなの海という考え方＝「里海」といった視点で考えることもできる。先ほどの委員の意見は、「里地」の話で、耕作放棄地の問題がある。「2.丘陵地や谷戸などの保全」と「5.良好な自然を象徴する動植物の保全」は「里地」の話としてまとめることもできる。

委員：「5.良好な自然を象徴する動植物の保全」は、生物多様性として残しておくべき。有害動物の駆除や農薬使用など、地区ごとに考える必要がある問題もあるので項目としては残しておくべき。表現は変えてもいいと思うが。

会長：「1.吾妻山の保全と魅力の向上」と「2.丘陵地や谷戸などの保全」は山でつながる。川が「3.水と親しめる葛川の再生」、海が「4.二宮海岸の保全と魅力の向上」、生物多様性が「5.良好な自然を象徴する動植物の保全」と続くが、これでは「農」が消えてしまう気がする。

委員：「2.丘陵地や谷戸などの保全」で農地も入るのでは。

委員：「2.丘陵地や谷戸などの保全」と「5.良好な自然を象徴する動植物の保全」は一緒にしてもいいのではないか。ニホンザルは二宮にはほとんどいない。

委員：県としては、どのように生物多様性を取り扱っているのか。

委員：丹沢や箱根などがひとつのターゲットとなっており、アライグマ、ハクビシン、イノシシなどが問題となっている。人の生活が脅かされている部分への対応が中心で、畑、里地の保全までは難しい。また、外来生物の駆除については、在来の生態系の保全が大きな目的となっている。二宮町の在来型の生態系のイメージがわからないが、それらを守りつつ、バランスをとることが必要になる。

会長：今日、ここで変えるということではなくて、部会で議論いただければいいと思う。前回の町長のあいさつの中で、「田舎のよさ」という話があった。これは農が形成する部分が多い。農地の転用や農家の減少など、農をめぐる問題も多い。どんな柱にするかは別として、部会で議論していただきたい。

委員：イノシシ、シカなどについては、二宮町単独で取り組むべき問題なのか。秦野や平塚などとの地域連携について検討すべきではないか。

委員：二宮町と大磯町、平塚市とで連携して、イノシシの駆除をしている。二宮だけでやっても意味がない。

委員：県では、特定鳥獣としてシカとサルの駆除を行っている。イノシシ、ハクビシンは市町村での対応になっている。

会長：地域連携で取り組む課題も検討していくことも必要になる。

- 委員：ミニ開発で自然が壊されている。その視点で中柱がつかれないか。開発行為による自然破壊をくい止めることが必要だと思う。
- 事務局：開発の許可・指導については、都市整備課で担当しているが、担当職員に低炭素社会の部会に参加してもらっている。開発を行うには様々な基準があるが、基本的には基準を満たせば許可を出さざるを得ないのが現状となっている。
- 委員：現状を見ると後手に回っている感じがする。10年という期間の中で今後の対応を考えていかないといけない。
- 事務局：開発許可には厳しい基準があり、都市計画的に考える必要がある。町の発展の部分との兼ね合いもある。緑地にダメージをあたえない開発をお願いするなどの方策は考えられるかもしれないが、開発してはいけないということにはできないと思う。
- 委員：町全体の目指すべき将来像の実現に向けた大きな青写真があればいいのではないか。
- 会長：アンケートの中でもそうした意見が出てきている。
- 委員：風致地区などについて研究をして、将来像を打ち出していくことも必要ではないか。議論を進めていくことが必要だと思う。
- 副会長：吾妻山は公園になっているのか。
- 事務局：風致地区にはなっている。
- 副会長：土地を民間が所有しているため問題になる。部分的にでも町が保有して保全することも必要なのではないか。どこまで保全すべきかを議論して、考えていくことが必要だと思う。
- 委員：そうした視点からのまちづくりの計画はあるのか。
- 事務局：総合計画がそれにあたる。かつては、市街化調整区域と市街化区域を半々にするという考え方がかつてはあったが、現在はそうした基準があるのかどうかはわからない。
- 委員：駅前商店街のスラム化などの問題や周辺道路の整備の問題などについて、基本的な計画があるのかわからないのかも一般の町民にはわからない。
- 委員：都市計画も進んでいるはず。都市計画と環境がマッチして進んでいかないといけない。
- 事務局：都市計画マスタープランで、道路や公園の整備については計画を定めている。風致地区のほか、都市緑地法の緑地保全地域として指定するなどの方法や、建物単体として、緑化を進めていくということも必要だと思う。また、「里山」、「里地」、「里川」、「里海」などについては、二宮らしい良い言葉なので計画の中で使っていきたい。

<「Ⅱ 環境にやさしく快適な循環型のまち(循環型社会の実現)」について>

委員：「1 ごみの発生・排出抑制」に含めていいのかもしれないが、3Rの問題でサイクルが完結していない。大都市では、家電等のリサイクルについては、素材として使ったり、製品として再生したりといった動きが出てきている。県単位ぐらいでセンターを作って、リサイクルを進めていくことも必要だと思う。

会長：廃棄物の処理計画にも関係してくる。広域処理との関係も出てくる。地域連携の部分になるのではないかな。

委員：二宮らしさという意味で地産地消を入れたらどうか。二宮は農業が特徴となっている。

事務局：海産物もある。

副会長：「循環型社会」では「ごみ」に関する中柱が目立つ。ごみだけでなくそれ以外のものについても入れたらいい。

委員：残飯については肥料として利用している例があるのではないかな。

事務局：「有機の会」で残飯をリサイクルしている。規模が小さいので、広域的な取組につなげていければと考えている。

委員：残飯を堆肥化し、その堆肥でできた食料を給食に使う。そして、またその残飯を堆肥にするというサイクルが作れると面白い。教育のためにもいい。

事務局：「5 食エコの促進」で盛り込んでいきたい。

会長：アンケートでエコバッグのことを言っている人がいた。

委員：「ごみ袋が高い、小分けできるものがほしい」という意見もあった。

会長：小さいごみ袋への需要は、世帯規模が小さくなっていることとも関連する。

委員：アンケートの属性の職業の部分で農林漁業が少ないのはなぜか。

事務局：これはあくまでもアンケートの回答者としての数であって、二宮町の実際の就業者の比率ではない。農業就業者の実数はデータ集の10ページに掲載している。

会長：ごみの不法投棄は地デジ化で増えているのか。

事務局：極端には増えていない。

<「Ⅲ 地球環境の保全に取り組むまち(低炭素社会の形成)」について>

会長：低炭素社会の形成に向けた町の取組はどうなっているのか。

事務局：これまで県が主体となって取組を進めていたが、先の東日本大震災の影響で県の見直し作業も止まっており、低炭素社会に向けた方向性が見えなくなっている。町としては、ソーラープロジェクトに取り組んでいきたいという意向がある。

委員：ソーラー発電の助成を行っているが、どのくらいの件数があるのか。

事務局：昨年度は22件、今年度は25件の枠だったが、今年度分はすでに4~5月でうまってしまい、さらに倍増して50件の枠にしている。

会長：50件以上来たらどうするのか。

事務局：今後どうなるのかわからないが、70件、80件となると難しい。これまでは新設住宅への設置が中心で、既存住宅への設置が増えてくると見込みも立てやすいのではないかと思っている。

委員：アンケート調査を見ても、防災に関する意識が高まっている。

会長：アンケートで高波が心配だが、津波も怖いという意見があった。

委員：二宮町はこれまで大きな災害に遭っていないので、対策が遅れているのではないか。

会長：地域防災計画の見直しについては行うのか。

事務局：他課で見直しの手続きを進めている。

会長：場合によっては、担当部署の職員に部会にきてもらって話をしてもらってもいい。

委員：砂地が多いので、減災という意味では雨水枡などは効果が高いのではないか。流量が急激に増えなくなるので良いと思う。

会長：道路の透水舗装よりも浸透枡の方がやりやすいのではないか。効果も大きそうだ。

委員：アンケートのP16に関することだが、二宮の観光スポットは、歩いて回れる距離にはないが、それらを結ぶ交通手段がない。レンタサイクルで結ぶことを考えたらどうか。ただし自転車で行くためには道路が問題となる。また、二宮は吾妻山をはじめ、車の駐車場も少ない。スイスのベルンでは、車を町中に入れることを禁止している。二宮らしさを出すためにはそうしたことを考えてもいいのではないか。

委員：駅前には放置自転車も多い。

委員：二宮の道路は自転車が走れる状況にない。公共交通に重点を置いたらどうか。高齢化も進んでいる。まちめぐりバスなどがあるといい。「1. 省資源・省エネルギー活動の促進」をもう少しわかる形で考えてもいい。

委員：バスで町内を回れるようになると駅前商店街が衰退する。

事務局：都市計画の分野では「歩いて回れる都市」が見直されている。

会長：二宮町では高齢化が進んでいる。前回の計画と比べるとベッドタウン的な性格が変わってきている可能性もある。今後は、高齢者がボランティアに参加するような方向も考えることが必要になるだろう。高齢化は今後10年で重要な問題になる。柱立てが大きい感じはあるが、色々意見を出していただきたい。

一昨日、横浜市であったシンポジウムを聞きにいったが、知事を中心として太陽光発電に取り組む方向が打ち出され、大変盛り上がっていた。二宮も低層住宅が多く、太陽光パネルは設置しやすいのではないか。

委員：小学校などの公共施設への導入がやりやすいのでは。

事務局：アンケート調査のクロス集計でみると、太陽光発電は70歳以上でも「今後やりたい」という人が多い。個人住宅でも可能性を秘めている。

会長：公共事業として、民間の住宅の屋根を借りてソーラーパネルを設置し、初期費用

を回収したら無償供与するというアイデアも出されている。県では第三セクターを使って、資金が回るようなことを考えている。

前回の資料にあった長野県飯田市の「おひさま発電所」の事例もある。

■アンケート集計結果について

*事務局から「二宮町 環境に関する町民アンケート調査結果」について説明

【質問・意見】

委員：アンケート調査結果のP10、P14の見方がわからない。パーセント表示の方がわかりやすい。

事務局：P9とP13にパーセントで出したものが掲載されているのでそちらを参照してほしい。P10、P14はアンケートの調査結果を得点化し、項目間の評価を比較しやすくしている。

委員：アンケートの回答者の年齢属性と、実際の住民の年齢属性とを比較して、代表性の検証を行ってほしい。

会長：今後、各部会でもアンケート結果等を踏まえながら検討していきたい。委員の皆さんは、決められた部会以外にも参加して議論していただきたい。

(2) その他

*事務局から部会の開催日程調整について説明

4. 閉会

12時閉会